

仙台スポーツリレートーク・レポート

主催 市民スポーツボランティア SV2004

私たちはスポーツボランティアとして幅広いスポーツをサポートしています。そのスポーツに関わるキーとなる方に、現在のスポーツ事情や将来への展望に関して話しを聞くことができれば、私たちの活動はもっと広がり豊かになると考え、ボランティアの栄養補給と夢の実現の場として企画したものが「仙台スポーツリレートーク」です。

第五回 仙台・宮城のスポーツ 「バスケット仙台 89ERS の今 ~ これからの可能性」

スピーカー 仙台スポーツリンク 球団代表 中村 彰久 さん

日時 2010年10月28日(水) 19時~21時

会場 青葉中央市民センター 第二会議室

参加者 ボランティア関連 13名



かねてより講師にお願いしていました仙台89ERS球団代表の中村さんは、bjリーグの創設からかわりチームは今年6シーズン目を迎えています。チームについて、仙台のスポーツについて、そしてボランティアについてうかがいます。

みなさん、こんにちは。私は仙台スポーツリンクの球団代表をしています中村です。最初にバスケットボールという競技についてお話しいたします。バスケットボールはアーナスポーツとしてはバレーに次いで2番目に競技人口の多いスポーツです。その数は世界で約4億5千万人といわれ212の国と地域が国際バスケットボール連盟に加盟しています。その頂点ともいべきアメリカのプロリーグNBAは10月にシーズンが開幕し翌年6月に終わりますが世界にバスケットボールを広げようという姿勢が強く、特に最近ではNBAチャイナを立ち上げ200人規模のスタッフを雇用し、中国に重点的に広げようとしています。さて、東北は全国に占める面積の割合で7.3%ですが、東北の人口に占めるバスケットボール競技人口の割合では11.3%と高く、明成高校や仙台高校、車イスの宮城MAX、能代工業など強豪チームも多くなっています。ただし、宮城はサッカー人口がベカルタ仙台の影響で多くバスケットについてはもっと広げる活動が必要と感じています。

次にbjリーグですが2005年に6チームでスタートしましたが、毎年チーム数が増えて今年は16チームとなりました。世の中全体が不況の中で増加している要因は参入しているチームの状況からわか

ります。本年の「宮崎・島根・秋田」、次年度参入が決定している「岩手・長野」のように他のプロスポーツがない地域からの参入が続いているのです。一般にプロ野球の経営規模が年間100億円、プロサッカーが16億から20億といわれる中で、プロバスケットボールは1億から3億円であり、地域の財政からみて(参入)可能な規模といえます。リーグとして当面の目標は24チーム・2カンファレンス・4ディビジョン制であり、今後神戸・鹿児島・群馬・青森などの参入が検討されているほか、地域的には札幌(北海道)や、名古屋(愛知)、広島などへの広がりを期待しているところです。あえてチームが増える事の悩みをいえば、現在西カンファレンスが9チームで、東カンファレンスが7チームというところでどのようにチーム数のバランスがとれるかというところでしょうか。

次に仙台89ERSについてですが、御承知のように仙台市になった1889年、さらに政令指定都市となった1989年にちなんで仙台89ERSという名前をつけました。昨シーズンの平均観客数は2,436人で沖縄の2,509人に次いでリーグ第二位でした。各チーム共お客様により多く来ていただくため地域に密着した活動をしています。大切な仕事であるチケットをどう売るかでは地域との人の関係作りが重要になるからです。プロ野球では「グッズ、放映料、チケット」などの収入は各球団に入ります。これに対しサッカーのJリーグでは「グッズや放映料」はリーグに入りそこから分配金として各チームに支払われます。その違いは大きくbjリーグはサッカーに近い方式を採用しています。ただし、野球の分野にも変化がおきつつあり、パリーグでは各チームのホームページのデザインを統一するなど共通化できるものは一緒にやることで、チーム間の差を無くしコストを減らそうとしているのに対し、セリーグではチーム間格差が大きくなっており、横浜ベイスターズのように経営問題が表面化している例も出てきています。

89ERSでは「市民参加型のホームタウン作り」の取組、アンケートを実施しそのデータを活用したり、実はチアリーダーも市民団体のひとつであり代表とは契約していますが個々との契約はしていません。さらに「地域の子供たちを応援します」ということであまり知られていませんが地道に、バスケットボール教室などを開催しています。また、エコアーリーナーの実現、国際交流にも取り組むほか、安定的な黒字経営をめざしています。「バスケットの火を消さない」ためには、一社だけよりも多くのスポンサーに支えてもらう仕組みにしたいと思っていますし、利益がでたら社会に還元するという方向にしたいと思います。

地域活動では学校訪問などを続けて、表に出ない子供たちに少しでも興味を持ってもらいたいのですが、実際に聞いてみると「スポーツをやっている」という子供は本当に少ないと感じます。仙台のプロスポーツ3球団はいい意味でライバルであり仲間であり、どんなスポーツであれ「スポーツをする子供を増やそう」という姿勢は共通しています。

来場者アンケートというものを仙台大学と連携して実施していますが、その結果をみると仙台は女性の比率が多くなっています。年齢では20歳から40歳代で8割近くを占めています。さらにバスケットの経験の有無では、経験なしという方が6割前後となっています。バスケットを実際にやっている競技人口がまだ少ない中では「経験のない人々」にいかにか足を運んでもらうかを目標としてきましたので、一定の効果はできているのだと思います。

最後に、先日報道されました「あすと長町1街区プロジェクト」について説明したいと思います。こ

これらの施設は仙台市の大型集客施設への助成制度を活用し作られるもので、日本でも数少ないハードとソフトが一体のものとして計画されているものです。今後89ERSのホームアリーナとなる「アリーナ棟」はコンサートなどでは6千人、試合では4千人の観客を収容するもので床はコンクリートのため、アイスホッケーやコンサート、展示などのイベントなど様々な利用が想定されます。このアリーナ棟が2012年5月、スポーツ用品を販売するセビオスポーツやスポーツジムなどの建物が2011年11月、フットサルコートやテニスコート、バスケットボールなどのドーム棟が2011年4月にそれぞれ竣工する予定です。全国でもめずらしいスポーツを「観る」「する」「買う」「話す」という要素をもった施設として非常に楽しみです。

【 意見交換 】

・ボランティア活動における変化については

今年からスタートしたイエロータウンプロジェクトなどを通じて、外に出る活動も増やしていきたい。

・その他、仙台のスポーツということで期待することは

毎年4月はプロスポーツ3つが開催されている月であり、みんなでプロスポーツを見ようという「スポーツ月間」としていろいろアピールしていければと思って、あちこちで提案しているところです。

